## 2019年12月 例会・忘年会報告

日時 2019年12月14日 (土) 14時30分~ 場所 東京グランドホテル

12 月例会は、12 月 14 日 (土) 14 時 30 分より、東京グランドホテル(桜の間)にて開催されました。

北岡淳子会長によるご挨拶の後、今年の新入会員のご紹介に先立ち、新入会員を代表して坂木昌子氏による詩の朗読がありました。続いてそれぞれの方たちによる自己紹介が行われました。

講演は詩人クラブ創立 70 周年記念プレイベント「現代詩東西南北」として、北海道からおいでいただいた詩人であると同時に、岩石の研究家でもある若宮明彦氏に、「奇岩・奇石の詩的風景」という演題で、スライドなどを用いながらお話をしていただきました。見たことのない奇岩や奇石などを目の当たりにして、しばしそこから醸し出される詩的イメージの中にひたりました。後半は、詩人クラブの創立にかかわられた西條八十の童謡を中心とした小演奏会が行われ、若い演奏家の方々と一緒に、なつかしい童謡を口ずさみました。そのあと、川中子義勝理事より、来年 11 月に行われる創立 70 周年記念事業の開始にあたっての説明がありました。

例会終了後には同ホテルにて忘年会が行われ、全国からみえた会員の方同士、和やかな 語らいの時をもち、スピーチに耳を傾けました。

司会進行は下川敬明氏と宮本苑生氏。講演要旨と当日の出席者は「詩界通信」90 号に 掲載いたします。 (文責 谷口典子)

≪朗読作品≫(敬称略)

坂木昌子 「変換キー」「夢」



講演「奇岩・奇石の詩的風景」若宮明彦氏



朗読とスピーチ 坂木昌子氏



小演奏会

## 西條八十の童謡を演奏させていただいて

フルート担当 根本 礼

日本詩人クラブの七十周年記念プレイベントの一つとして、日本詩人クラブの創始者でもある西條八十の曲を中心としたものを九曲ほど演奏させていただきました。フルート二名、バイオリン一名、チェロー名での演奏となりました。

これまでの私の活動では、童謡を演奏する機会はほとんどありませんでしたので、新しい挑戦となりました。まず、童謡の楽譜を、四重奏用、三重奏用に編曲していただくところから始まりました。一般的にはピアノと歌で奏でることの多い童謡ですので、それぞれの楽器のパートが違和感なくきちんと響くように振り分けられているかどうかに気を使いました。選曲は、皆様に聞きなじみのある曲で、すぐに口ずさめるような曲に致しました。西條八十作詞のものとしては、「かなりや」、「肩たたき」、「鞠と殿様」を、その他に、日

本詩人クラブに関係のある方として、山田耕筰作曲の「ペチカ」や、土井晩翠作詞の「荒城の月」などを選ばせていただきました。日本の童謡を、フルートやバイオリンで弾くとどのようになるのか、不安と楽しみが入り混じったような感覚がありましたが、皆で曲を合わせてみますと、いままで聞いてきた童謡とはまた違った味わいの中にも、その曲の雰囲気をこわすことなく、それぞれの楽器とうまく共鳴した曲風になったのではないかと思っています。めったにないこのような演奏を、皆様に楽しんでいただけましたら幸いに思っております。

これらの童謡はいずれも、会場の皆様がご一緒に歌ってくださいました。司会の方が上 手に歌のリードをとってくださったおかげで、大勢の皆様方と会場を共有できましたこと は、私たちにとっても楽しい経験でした。

十一月にはいよいよ七〇周年の記念行事が行われると伺っております。そこでもまた、 西條八十の懐かしい曲をいくつか演奏させていただくことになっております。選曲にあた りまして、アンケートをとらせていただいたようですので、それらを参考にさせていただ きたいと思います。日頃、私たち演奏家は、西洋のクラシック音楽を演奏することが多く、 日本の曲を演奏することは少ないものです。西條八十の曲を演奏するという機会に恵まれ ましたことは、自分の音楽の幅を広げるうえで大変よい経験になっております。

皆様とまたお目にかかれることを楽しみに、練習してまいります。どうもありがとうご ざいました。

